

エチオピア国 ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2

1) プロジェクト期間：

- フェーズ1：2003年10月～2006年9月
- フェーズ2：2006年10月～2010年9月

2) 相手国機関：オロミア州森林公社（ジンマ森林公社）

3) プロジェクトサイト：ベレテ・ゲラ森林優先地域

- 位置：首都アディス・アベバから南西約400km
- 面積：約170,000ヘクタール（東京23区の約3倍）
- ゲラ森林エリア：30村（85集落）
- ベレテ・森林エリア：13村（42集落）
- 裨益人口：70,000～100,000人

4) 背景・目的：

エチオピアは、かつては国土面積の約35%が森林で占められていたといわれていますが、不適切な土地利用や過度の森林伐採、人口増加等により、人工林も含めた森林は、国土面積の11%程度まで減少・劣化してきています（ベレテ・ゲラ森林優先地域のような森林生態系を有する自然林の割合は国土面積の3%程度）。こうした事態に対処するため、エチオピア国政府は州森林優先地域の選定等、森林保全のための施策を打ち出していますが、その実施は十分ではありません。

このような状況の中で、同国の中でも貴重な森林生態系を有する南西部地域に位置し、居住地や農地の拡大により天然林が毎年減少しており、森林資源の有効利用及び森林生態系の保全のために早急な対策が必要であるとされるベレテ・ゲラ森林優先地域をターゲットとした「ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画」プロジェクトの第1フェーズ（2003年10月より3年間）が行われました。同期間では、「ベレテ・ゲラ森林優先地域内の対象村落において、地域住民による森林管理が持続的に行われること」をプロジェクト目標として、対象村落及び集落の選定、対象集落における森林・農地の境界線に係る関係者合意、森林管理仮契約の策定・締結などを通じて、参加型森林管理の実施に向けた基本的な体制が整備されました。フェーズ2（2006年10月より4年間）では、森林管理に係る活動に加え、以下のような住民が森を守る動機付けとしての生計向上支援の実施に取り組んでいます。

- 森林コーヒーの認証と商品化・市場開拓～非木材林産物を利用した収入向上支援
- 農民の学校（ファーマー・フィールドスクール）の実施～改良農業・土地利用の多様化による農業生産性の改善支援（その結果として、森林への農地拡大が低減することを目的としている）

同活動の実施を通じて、ベレテ・ゲラの森にある資源を有効に利用し、森を今後も良い状態で守り続けていくことのメリット（生計の安定・収入増加）を、住民自身が認識できるような仕組み（森を守ることで、森からの現金収入が増える）を確立することを目指しています。

